



自分を越えた眼を Look Beyond Yourself

ラジェンドラ・K. サブ
1991～1992年度 R I 会長

ロータリー財団月間

1991. 11. 8 (金) 第197回例会

1. 点 鐘
2. ロータリーソング「手に手つないで」
3. 「四つのテスト」唱和
4. 食 事
5. 会長の時間
6. 幹事報告
7. 各委員会報告
8. 会員卓話 (佐野 保君)
9. 点 鐘

第196回例会記録

(1991. 11. 1)

会長の時間 濱田 松太郎

皆さん 今日、本日は第196回例会です。はじめに、国際ロータリー第2730地区ガバナー井上日出男君より、公式訪問に関して書簡が届きましたのでお伝えします。

「拝啓 秋冷の候ますますお元気で消光のおんことと拝察申し上げます。先日の公式訪問に際しましては、行き届いたご配慮と友情あふれるご接待をいただきまして厚くお礼申し上げます。おかげさまで大変有意義で楽しい公式訪問になりました。

実を申しますと、私は心配しながら貴クラブに伺ったのですが、皆さんが思ったよりも明朗で、会員も年度初めより3名も増加されておりロータリー財団の寄付額も地区の平均以上でしたので、安心しました。

貴クラブが宮崎市郊外に位置し、20年前に

創立されたライオンズクラブに町の要職者を押さえられ、大変苦しい立場にあることがよく解りました。むしろ、今までよく孤塁を守って来られたご健闘を讃えるべきでありましょう。

本年の最大の目標は、やはり会員増強ですね。私が協議会で申上げた会員増強・退会防止の話をご参考になさってください。家族ぐるみの親睦が大変役に立つと思えますよ。

次に、ロータリーのことを勉強しましょう。月に1回ぐらいロータリー情報集会を開いてはいかがでしょうか。

苦境に負けず頑張ってください。必要があれば私もできるだけのご援助をするつもりでございます。

あと1ヶ月足らずで地区大会です。全員参加されて、あの独特の大会の雰囲気に触れ、ロータリアンとしての誇らかな連帯感を認識いたしましょう。ご健康をお祈りいたします。敬具」

さて、一昨日は G. S. E. スコットランド RCメンバーの歓迎パーティが宮崎県中部地区 RC主催で、宮崎観光ホテルにおいて開催されました。国際奉仕委員長池田仁志君が所用のため出席できなくなりましたので、僕が代理出席しました。メンバー全員と対談することはできませんでしたが、環境衛生官キース・マクナマラ君(36歳、独身、身長180cmぐらいのスマートなハンサム紳士)と、コンピューターソフト課長のグラム・ウォード君と挨拶を交わしました。リーダーの刑務所長ビル・ウォーカー

てたてりやーろゑ士お

君がユーモアたっぷりの片言の日本語で最後をしめくり、歓迎会を盛り上げたのは印象的でした。

ご承知のように、G. S. E. (Group Study Exchange) はロータリー財団によるプログラムの一つで、1965年に始められ、国際理解と親善を推進するのを目的として、専門職業人(年齢25~35歳)5名のグループを4週間~6週間外国に派遣し、ホスト国の同じ職業に従事している人と会い、工場・学校・諸施設を訪問させるものです。

チームのリーダーはロータリアンが担当します。G. S. E. に参加した、あるガバナーは「ロータリーには国境がありません。G. S. E. メンバーで一つのチームをつくりませんが、その長所は、ロータリーと同じく多様性があります。」と述懐しています。

本月は「ロータリー財団月間」に当たります。

この「ロータリー財団」は、人道的かつ教育的観点からみて、世界有数の民間財団であります。ロータリー財団の目標は前にも申し上げましたように、教育的、人道的プログラムに資金を提供することによって世界の人々の理解と友好関係を助長することでありまして、この目標を達成するために次の8種類のプログラムがあります。

①奨学金 ②特別同額補助金 ③研究グループ
④研究グループ交換 ⑤保健 ⑥飢餓追放及び人間尊重(3-H)補助金 ⑦開発途上国で奉仕する大学教員のための補助金 ⑧ロータリー・ボランティア:ポリオ・プラスプログラム:ロータリー平和プログラム

以上のことを遂行するために、財団に対する継続的な支援を奨励いたします。特にポール・ハリスフェローと準フェローのことにつきまして、皆様方のご理解を得たいものと期待します

次は、ロータリー財団75秒について、第6週の話に移ります。

「傑出した奉仕に対して管理委員会が授与する二つの表彰」

私たちがロータリアンになるよう勧められ、その誘いを受けた時、私たちは「超我の奉仕」という課題を受諾しました。私たちは、自分の努力に対して精神面で報われています。しかし、特別な長期にわたる奉仕を表彰することは、ボランティアのやる気を起こし、同僚の称賛を受けるでしょう。

毎年ロータリー財団管理委員会は、このような特別な努力に対して、ロータリアンに敬意を表しております。財団功労表彰状は、毎年地区内から一人に限り授与されます。一度受賞すると再度受賞することはできません。ロータリー財団に対する功績が、地区の範囲を超えていたり、長期にわたったりする場合は、以前財団功労表彰状を受けた人であってもロータリー財団特別賞を授与されることがあります。毎年世界で50人以内のロータリアンが、この賞を象徴する美しいブランクを授与されています。

財団への支援が財政面に限られている人にはこれらの賞は授与されないし、現に、また次期管理委員、RI理事、または地区ガバナーにも授与されません。誰でも、この賞の受賞者にロータリアンを指名することができます。

続いて第7週に進みます。

「他の人に明るい展望を与えるロータリアン」
ロータリアンの眼は無数の可能性で満ちている国際社会を見えています。可能性を伸ばせず障害に直面している地域に、ロータリアンが手を差し伸べる一つの方法は、保健、飢餓追放及び人間尊重(3-H)補助金です。その障害が目の不自由さであったなら、ロータリアンは優れた3-Hプロジェクトでその障害に立ち向いました。バングラディッシュの数十万人の人々が、バングラディッシュの第3280地区とオーストラリアの数地区の始めた3-H補助金の結果、眼の治療を受けたり、外科手術を受けたりしました。メキシコでは、3-H補助金によりラテ

ン・アメリカで最高の施設の一つが失明防止のために建設され、その1年目には35000人以上が治療を受けました。ナイゼリアでは、ラゴス・ロータリークラブがドイツのマールブルグ・ロータリークラブと協力して点字印刷機を設置し、その操作法を目の不自由な人々に教えて、目の不自由な人々の教育の機会をつくりました。ドミニカ共和国のサンタ・ドナゴ・ロータリークラブは、糖尿病を原因とする失明を治療するための施設をつくりました。さらに、インド南部のタミールナドゥ州ではロータリアンが農村の眼疾治療計画を開始するために、保健、飢餓追放及び人間性尊重補助金を使ってきました。ロータリアンは、すべての人々の将来に目を向けて、財団を通じて援助の手を差し伸べています。

幹事報告 鈴木正敏

例会変更通知

- ・日向中央RC 11月13日は特別休会
- ・小林中央RC 11月15日 12:30～九州グンゼ宮崎工場訪問

出席報告 委員長代理 鈴木正敏

会 員 数	19名
欠 席 者 数	2名
H C 出 席 者 数	17名
出 席 率	89.47%
欠 席 者 名	井下・岩切

親睦委員会より 池田仁志

11月セレモニーは、結婚記念日を今月お迎えになる佐野 保君に会長から記念品を贈り、全会員で祝福いたします。

11月のハッピー・ボイス

本日はお祝いをいただきありがとうございます。今後も夫婦仲良く、元気で、楽しく過ごしたいと思います。 佐野 保

*佐野君より多額のハッピーをいただきましたので、心からお礼を申し上げます。

なお、今月は、新入会されました柳田光寛君の令夫人のご誕生日です。おめでとうございます。

テーブル・スピーチ

西都RC 関 師 範 雄 君

(前 宮崎県中部分区代理 産婦人科医)

私は産婦人科医でありますので、性という問題についても診察室でいろいろ直面することがあります。戦後の性の開放は、世界の趨勢であるのでやむを得ないという面もありますが、ある意味では非常に困った状態であります。

特に私がここ15年間ほど力を注いできたのは、中学生、高校生など若人たちの性の問題です。学校の先生に言わせると、性教育は避けて通ることのできない重要な問題であるが、実際にはなかなか教え方が難しいということでした。学校で性関係の問題が発生しますと、外部に分からないように、校長と担任と親しか知らないように内密に処理されます。たとえば、中学生の妊娠中絶の問題など、表面に出ないものが多いのです。これではいけない、多くの親や地域社会の人に、青少年の性についての実態を認識させることが必要であると考えた私は、西都市内の17校の中学生・高校生の性意識のアンケート調査を実施し、学校や関係機関に発表しました。これを見た教師や親は、西都市の中学生・高校生の性意識がここまで進んでいるのかと驚き、何とかしなければいけないと目覚め、学校・地域を挙げて青少年の性教育に取り組むことになりました。その成果の確たる数字はまだ現われていませんが、その効果はやがて見られるであろうと期待しております。

現代の性教育とは、人間教育のあり方の基本問題でもあります。われわれの時代には、「修身」とか「公民」という教科があったのですが今はそれがありません。学校の先生方も大学で本当の性教育を受けておりませんので、一番不得意とする科目であります。しかし、学校で性教育をやってみると生徒は真剣に聴いてくれる、別に「いやらしい」という感覚では受け取っていな

いということで、だんだん教師にも性教育が解ってきたように聞いております。

最近、老人の性が社会的問題の一つとして取りあげられています。

これはそろそろ私もその域に達しますので、他人事とは考えられません。「年寄りの性はいいやらしい」とか、「年甲斐もない」とかいうことで片付けられているのが現状ですが、本音でいいますと、人間の色気というものは生涯無くなるものではありません。年寄りを枯れたものとして取扱わず、生身のものとして、老人の性を取り上げていかなければなりません。

この前西都市で、「プロバスクラブ」というのを私どもが肝煎りでつくりました。これは、市役所・農協・校長の退職者の集いで32名います。その第1回例会の卓話で、老人の性の問題を話しました。そのものズバリで話しましたが、かなり皆さんから喜んでいただき、今後もどしどしやってもらいたいということでした。

本当に性の問題は生涯教育といいますが、最後まで付きまとうものです。たとえば、老人ホームに行きますと、おばあちゃんたちが化粧をしたりすると、そのホームが華やかになることがはっきりわかります。おじいちゃんたちまでが若やかできます。これが人間の性の面白いところだなと思います。やがて自分もそうなるのだらうなと思うのですが……。

◇ ◇ ◇ ◇
会長コメント 「老人の性」は正に他人事ではなく、今の我が身についてついつい考えさせられることで、大変痛いところをご指導受けたような感じです。本日は遠方よりお越しいただき、大変貴重なお話を本当に有難うございました。

先生のご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

ビ ジ タ ー
西都RC 函師 鎮雄君・藪押 邦弘君
高鍋RC 高山 昭康君

テーブル・スピーチ

高鍋RC 高山 昭康君

(南九州大学教授)

以前にも話しましたが、私は12年間無欠席を続けています。なぜ無欠席を続けるかといいますと、ロータリーが100年近く継続しているのは出席が厳しいからと考えます。このような(例会出席という)奉仕活動を楽にしたならば、必ずや出て来ない会員が多いと思うですね。誰だって忙しいのですから……。

このように厳しくしておかつ出席を頑張るといふ制度が実はすばらしいと私は思うのです。

ですからこれまで続いて来たのではないのでしょうか。ロータリーに入会した以上は、どうしても出席しなければならないと考えること、自分一人ぐらいいは欠席してもよいだろうなどと安易な考えを持たないことです。みんなが出席するからRCは成立するので、そこにロータリーの良さと厳しさがあると思います。

私は現在佐土原町の教育委員をやっています。昨日、町長・助役・収入役・各校長・町教育委員の話し合いがありました。そのなかで一番問題になっていたのは登校拒否のことでした。

全国で小中学校合わせて4万人の児童・生徒が50日以上登校拒否をしています。佐土原町では幸い15名程度であるということでした。

最近の例では、登校拒否の子どもと両親を小学校に呼んで、登校拒否の理由を聞いたところ、両親がお互いに非難し合い遂には夫婦喧嘩になり、子どもはたまりかねて校舎の屋根の上に逃げ、女教師が屋根から連れ降ろしたという話が校長からありました。結局その子どもはこれからは学校に来ます、ということになったのですが、登校拒否の原因が家庭にもあったのではないかと思われます。

登校拒否の子どもでも、どこか良いところがあると思うのです。たとえば、絵が好きだとか歌がうまいとか。とにかくその子の長所を見つけ、良い点をほめてやるのが大切だと考えま

す。そのようにして教育すれば、子どもにも自然と自信が付き、登校するようになるのではないか、ということを経験者先生たちと話しました

清武町で最近学校での暴力問題が起きて、中学校で先生たちは決して手を出さない、手を後に組んでいるそうです。そうしたら、生徒の方から体当たりをしてきたそうです。友達がない教師や親とのコミュニケーションが不十分などで悪の道へ走るのではないか、といわれていますが、先輩の悪どもが生徒に指示している悪いことをさせるのだそうです。この両者の関係をいかにして断ち切るかに問題があります。

統計を調べてみますと、昭和30年前後の高度経済成長時代に集団就職で関東・関西へ中学校卒で行き、現地でだまされて結婚したが、やがて離婚して帰郷した女性の子どもたちが、悪連中のなかに多いようです。

佐土原町内の某中学校の卒業式の時、6人の卒業生が教師をやっつけるという情報が学校側には入った。教師たちは泊り込みで警戒に当たったが、自分たちでは限界があると判断し、校長は警察に連絡して卒業式場に私服刑事を配置してもらった。ところが出席していた父母から町教育委員会に「なぜ卒業式場に刑事を入れなければならないのか」と抗議があった。町教委は全くそのような事態を知らなかったのである。刑事には引取ってもらった。やがて6人組がやって来た。その中には背中に入墨や、頭を赤く染めたりしている者もいた。校長は懸命に6人に卒業式場に入らぬよう頼んで、何とか聞き入れてくれた。父親を呼んで校長室に6人を軟禁しどうにか無事に卒業式を終えることができた。このような話も聞きました。その時の父親のわが子の可愛がりように、校長は驚いたそうです。親に甘やかされて育った子どもが、教師に反抗するのを、英雄か何かになった気持で本人はいるわけですね。そういう子どもたちが、卒業後は在校生にいろいろ非行をさせるのです。

小・中学校は義務教育ですから、非行児でも退学させるわけにはいかないし、他の子どもたちに悪影響を及ぼさないよう、どうしたらその芽をつむことができるのか、教師にとって大変な苦労があるのを察していただきたいと思えます。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

会長コメント

昔の先生は、言うことを聞かない子どもがいると竹の鞭で叩きました。それでも今になってみると、有難い教えを受けたものだと思えます。現在そんなことをしたら大変なことです。

先生方が萎縮され、真の魂のこもった教育ができないとは残念です。甘やかされ、苦勞せず育った子どもたちが21世紀を引き継いで行かねばなりません。こんなことでは危かしくて見ておられません。「鉄は熱いうちに叩け」、信念を持った先生方の勇猛心に期待するものです。貴重な卓話をいただき有難うございました。

井上ガバナー公式訪問アドレスⅡ

国際ロータリーは、世界を6つの区域に分けています。その中で日本は、エイシャ第1・第3ゾーンに属しています。わが国のRC数は約2000、会員は12万人ほどいます。私たちの2730地区は第3ゾーンに属し、クラブ数が56、会員が約3000人です。

第2ゾーンはインドとタイ、第4ゾーンは韓国、台湾、マレーシア、インドネシアが属しています。

ロータリーが創立してから86年たち、その間世界では多くの戦争や事変がありました。

戦争に伴い必ず科学が発達します。そのため情報網、交通網が非常に発達しまして、世界が時間的に短縮されてきました。今まで遠かった世界の人達が、隣人の関係になったのです。

このことについては後でお話しますが……。

ポール・ハリスがシカゴクラブを創立したときは、親睦と相互扶助の二つの会則しかありま

せんでした。会員は皆が仲良くしよう、物を買うなら会員の店で買しましょう、会員に物を売るときはできるだけ安く売しましょう、という内容のものでした。その頃、ロナルド・カーターという人がクラブへの入会を勧められた時に

「僕はそんなクラブには入らない。会員の利益しか考えず、社会的なことなど少しも念頭に置かないクラブは発展しないからお断りする。」と言ったそうです。

このことを聞いてポール・ハリスは反省しました。そして、会則に第3条として「シカゴ市の利益を推進すること」を加えました。たとえば物を売る場合、買う人の身になって適切な価格で売る。そういう人達は一晩で大金を儲けることはなかったが、次第に商売が繁盛して資産を築くようになりました。それを見て、「最も多く奉仕する者、最も多く報いられる」という有名な言葉ができました。

さらに進んで、自分のためだけでなく、奉仕するためにロータリーに入るのである、といういわゆる「超我の奉仕」の理念も強調されました。このようにして、今日のロータリーに育ってきたわけです。

最近のロータリーの変化について申し上げますと、まず第一に女性会員ができたこと、第二は、共産圏内に多くのロータリー・クラブが設立されたことです。共産圏の人々が奉仕の理想を認めてくれたことは、われわれにとって大変嬉しいことですが、それらのクラブは人頭分担金を支払わないので大変困っています。

また、近い将来にベトナム、ラオスにもクラブができるようにいわれています。ただ、発展途上国にRCが次々とできると、いろいろな苦情がRIに出されます。たとえば、私のところは疾病が流行しているので助けて欲しい、自分のところは文盲の人が多くて就職できずに困っているので、なんとかして欲しい、というような要求が出てきます。そうすると、ロータリーの、人のために尽くすという奉仕の形が、個

人奉仕からだんだん団体奉仕に変わって行き、人道主義的になっていくおそれがあります。

ま、それはそれで構わないのですが、困ったことは、社会奉仕の決議23-34との関係です。

人間の心というものは、自分の利益を図りたいという気持と、人のために何かしたいと思う心、この相反するものを持っています。これを調整するのがロータリーです。

ロータリアンは決して完全な人間ではありません。

ロータリーの奉仕というのは元来個人奉仕が基本ですよ。ところが、困っている国々は、この23-34を撤廃しようという動きがあります。RIでも、来年の規定審議会に諮って廃止したい意向であります。

しかし日本は23-34は残して欲しいと主張しております。

ロータリー財団について

六代RI会長アーチ・克蘭ク氏がロータリーの構想を打出したのですが、今年度は75年を記念してRIは次のことを計画しています。

1. 財団の基金をふやす。
ベネファクター制度の推進
(死後遺産の一部をRI財団に寄付予約)
2. シェアシステムの創設
40%をRI財団、60%を地区が使う。

RI会長の方針について

サブ会長は、今年度は特別に新しいプログラムは示していません。ロータリーには沢山のプログラムが用意してあります。その中から何か一つを選んで、クラブで実施して欲しいといっておられます。私からも、どんな小さなことでもよいから、できる範囲で、何か新しい一つのことを実践していただくようお願いします。

本年度は、RI会長賞も設けられておりません。ロータリーの奉仕は、他人との競争よりも自分との競争であると言っておられます。

(次回へ続く)